

食品保健指導士会会報

【第14号】 ■発行：平成19年1月1日
■発行所：食品保健指導士会

東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL. 03-3268-3160 FAX. 03-3268-3373
(財団法人日本健康・栄養食品協会教育研修部内)

『新年おめでとうございます』

健康産業新聞(CMPジャパン) 株式会社

編集局長 牧野 順一



新年の始まりである。美しい日本をどこに求めるか？凡人には分らないが、この日ばかりは平和で安らかにと思わざるをえない。「美しい日本」論争で明け暮れた〇六年は、皮肉なこと、国政も地方政治も美しさとは無縁の事件ばかりが続いた。

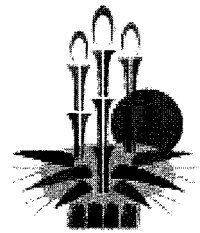
多くの自殺者を出したいじめ問題は、いじめをする人を懲らしめるという事で決着し、本質問題の個性なき教育の歪にまでは立ち入らなかった。もつとも、長きにわたる未履修問題を帳尻あわせで終わらせる国である。国家百年の計も米百俵の志も見られない。教育・啓発のタウンミーティングに至っては、一九億の予算を投じ、やらせと大盤振る舞いの饗宴となったわけで、その見返りは誰のポケットに入ったのかと、下衆な国の下衆な市民？としては、気になるところだ。

と、対岸の火事？には言いたいこともいえるが、足元も火がついていた一年だった。健康食品も安全・安心議論が中心に、アガリクスやその他の健康食品が取り上げられ、あるいはマルチ業者に健康食品が取り扱われ、健康食品(正確には販売システムのだが)が消費者トラブル

ルの原因のように扱われた。

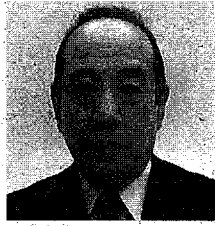
幸いにも、日健栄協の林理事長が安全問題に「安全な食べ物は無い、安全な食べ方があるだけだ」とする考え方を示してくれたことで、今後の道筋が拓けてきたことは確かだ。業界は、安全性の議論を協会と共に迅速に進めていく必要がある。また、「安全な食べ方」の前には薬事法が立ちはだかるのだが、原点に返れば、健康食品のポジションが見えてくる。媚びることなく、恐れることなく、(薬事法の抜け道探しではなく)正々堂々の議論で中央突破したいものである。

生活習慣病の増加と高齢社会の到来は医療費問題を更に難しく追い込んでいるが、その分、社会の期待は健康食品に集まる。メタボリックシンドロームという定義づけで、より分かりやすく、自己責任と自己コントロールによる予防対策が求められている。そのポイントは食事と運動、睡眠と休養などになるが、食事による栄養不足の補給や、運動をサポートするスポーツシューズ、睡眠や休養における各種のハーブなど活躍の場は大きい。ましてや来年の検診制度の義務化では、保健指導もスタートする。八〇〇〇万人が受診し、段階に応じた保健指導が義務化されるわけで、その指導の受け皿として、食品保健指導士(更に教育研修が必要ではあるが)の責務も広がる。自律的に、挑戦的に、このチャンスを捉えて前進していただきたい。



みんなちがつていい!

食品保健指導士会 会長 杉浦 上太郎



明けましておめでとうございませう。
会員各位には、清々しい気持ちで新年をお迎えのことと存じます。

食品保健指導士(以下指導士と記す)としての平成一八年はいかがだったでしょうか?

食品保健指導士会(以下当会と記す)では、毎年、指導士がどのように活躍されているか、またどのようなニーズをもっているかを把握するためアンケート調査を実施しています。昨年の結果につきましては、会報第一四号で報告(回答者二三八名)いたしました。指導士の資格を活用している方は四九%の二一六名でした。その活用法の具体的回答内容を整理してみますと(複数回答あり)、先ず「企業内における開発や営業などの業務遂行に活用」とするものが八一名でトップ。次いで「消費者への健康コンサルタントや講演会の講師などで活用」が六〇名、「自分や家族の健康維持・増進に活用」が四八名でした。残念ながら「指導士の資格を活用していない」とする五一%の方の具体的内容としては、「活用する場がない」が七七名、「知識・経

験不足」が四六名、「忙しくて時間がない」が二二名でした。

活躍する場がないとする七七名の方は実に「もったいない」と思います。今や、健康補助食品の適正使用に関する啓発活動に対しては、地方自治体や各種消費者団体のニーズは相当高いものがあります。自分の存在を知ってもらう機会を積極的に作りましょう。自ら近隣の市・町村役所を訪れ、その専門部署の紹介を得、公益性の活動の実践で協力するという意思表示をして下さい。もし、それはしにくいと思う方は、当会に気軽に連絡をして下さい。連絡先は、(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)教育研修部宛てにファックスでお願いします。指導士としての活動が実現できるようにお手伝いをいたします。

また講演をしたいのだが、映像資料の作成が苦手(パワーポイントの作成等)で躊躇している方も申し出て下さい。資料作成のお手伝いもいたします。要は、是非とも社会貢献したいという強い意志をもつことが大切です。「知識経験不足」とする方四六名の方は、近隣の指導士と仲間関係を作られるとよいでしょう。現在、東京、千葉、関西には地区会が結成されています。適宜、研修会や懇親会を開催しております。情報交換の場として絶好です。近隣の方は、ぜひ積極的に参加して下さい。

当会の大きな機能の一つは、皆様の様々なニーズにお応えすることです。その様々なニーズにお応えするために、当会では、今、当

会のホームページを作成すべく準備委員会の設置を予定しております。運営に当っては日健栄協の協力も得ながら、タイムリーな情報発信、充実した情報提供、双方向のコミュニケーションによる相談機能等の充実を図りたいと思っております。

また、現在、日健栄協ビルの一階展示ルームでは、常時指導士が来訪者の説明要員として活躍していますが、一月からは、さらに従来日健栄協が行っていた消費者からの電話による相談業務も加えることになりました。日健栄協と私たち指導士は、益々「表裏一体」の関係を深め、大きな社会性発揮をして参ります。

私たち指導士の特徴は様々な基礎職能をもった方がいるということです。管理栄養士・栄養士、薬剤師、医師、歯科医師、獣医師、物理療法士等、また日々の活躍の場も、企業、病院、薬局・薬店、官公庁、自営等と様々です。近年、脚光を浴びている童謡詩人の金子みすゞのある詩が心に浮かびます。

私と小鳥と鈴と (金子みすゞ作)

私が両手をひろげても、お空はちつとも飛べないが、飛べる小鳥は私のやうに、地面(じべた)を速くは走れない。私からだをゆすつても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のやうに、たくさんな唄は知らないよ。鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがつて、みんないい。指導士の認知度を高める要諦は、皆で協力し合い、個々人すべてが努力することです。それ以外ないと思います。



『食と薬の相互作用』(シリーズ3)

幹事 池田 千恵子

前回は、栄養機能食品のミネラルと薬物の相互作用について記載しました。
今回はビタミンとの相互作用について記載します。

2. 栄養機能食品と薬物の相互作用

2) ビタミン

① ビタミンA

- ・経口抗凝血剤（ワルファリン）は、大量のビタミンAとで作用が増強され出血を起こすことがあります。
- ・ビタミンAとよく似た構造をもつ抗癌剤とでビタミンAの過剰症の副作用が出ます。
- ・ある種の抗癌剤とで抗癌剤の副作用を増強することがあります。

② ビタミンB₆

- ・抗結核剤の一部のお薬の少量とでは、抗結核剤の効果がなくなりますが、大量では抗結核剤の副作用が軽減されます。
- ・一部のパーキンソンのお薬・てんかんのお薬とで、お薬の効果がなくなったり効果が低下することがあります。

③ ビタミンB₁₂

- ・ある種の胃・十二指腸潰瘍のお薬やてんかんのお薬がB₁₂の吸収を悪くします。

④ ビタミンC

- ・ビタミンCとの併用でお薬の効果が減少する薬物があります。
経口抗凝血剤、抗うつ剤、神経に作用するお薬の一部、ある種の解熱剤
- ・ビタミンCとの併用でお薬の効果が増大する薬物があります。
ある種の睡眠剤、鉄剤、女性ホルモン
- ・ある種の利尿剤とで腎・尿路結石のリスクが高くなります。
- ・ビタミンCの大量と鉄を排泄させるお薬とで、心臓の機能が低下することがあります。

⑤ ビタミンD

- ・カルシウム剤・医療用活性型ビタミンD製剤・ホルモン剤の一部とで高カルシウム血症による副作用が起きることがあります。

⑥ ビタミンE

- ・ビタミンEの大量は経口抗凝血剤の作用を増強します。

⑦ 葉酸

- ・ある種のてんかんのお薬とで、てんかんのお薬の効果が減少します。
- ・ある種の化学療法剤とで、葉酸の吸収が低下します。
- ・葉酸は、亜鉛の生体での利用率を減少させます。

(次号に続く)

「秋期研修会」特集

牧野順一先生の講演

『健康食品市場の』

現在の問題点と今後の課題』

|| 東京・大阪で開催 ||

《東京会場》

◆開催月日：平成一八年一月一八日（土）

一三時～一五時

◆開催場所：（財）日本健康・栄養食品協会三階講堂

◆講師：CMPジャパン株式会社

代表取締役社長 牧野順一先生

◆参加者：二五名

《大阪会場》

◆開催月日：平成一八年一月二五日（土）

一三時～一五時

◆開催場所：新大阪丸ビル本館四一―号室

◆講師：東京会場と同じ

◆参加者：二二名

毎年、食品保健指導士会（以下当会と記す）の主要活動として「秋期研修会」を実施しております。今年も、より多くの食品保健指導士（以下指導士と記す）に機会提供をすべく、東京と大阪の二地区において研修会を開催しました。

講師には、食品保健指導士養成講習会において「市場流通概論」を担当されている牧野先生にお願いをしました。牧野先生には二週連続のハードスケジュールにも係らず、私たちの希望を快く承諾いただきました。本当にありがたいことです。

牧野先生は、健康食品がかかえる独特の問題点をズバツと様々な観点から明らかにし、その解決法の考え方を明確にお示し下さいました。冒頭、ダーウインの進化論「変化しない生物は滅びる」を引用し、「変化しないとおいていかれる」との示唆は、私たちに異次元的なひらめきを与えてくれました。

今年も、研修会の実施にあたりましては、東京会場の会場として、（財）日本健康・栄養食品協会（以下日健栄協と記す）の三階会議室を借用するなど日健栄協より大きな支援をいただきました。また会場におけるさまざまな係については、会員に担当いただきました。関係各位に改めて深く感謝申し上げます。

私たち指導士は、消費者に対して、より実効の上がる指導活動をするために、幅広い知識の習得や、指導スキルの向上、また人格を磨く必要があります。

食品保健指導士会では、各位の自己研鑽の動機づけとして、このような研修会を現在のような年に一度の開催から数回の開催をしていきたいと考えています。そのためには、会員諸氏の深い理解と積極的な自己研鑽意欲がぜひとも必要です。今回の研修会の参加者は、東京・大阪の両地区を合わせて三七名でした。次回は全会員の出席を強く望むところです。

講演要旨

『健康食品市場の』

現在の問題点と今後の課題』

CMPジャパン株式会社

代表取締役社長 牧野順一先生

一、講演テーマ（一）

「消費市場前年割れ、初のマイナス成長の危機」

① 売上げ推移をめぐらる問題

② 安全性・有用性をめぐらる議論

③ 健康食品関連の法律問題

健康食品業界は、ここ十数年来好調に市場を増大させてきたが、現在は、今までに体験したことのないような状況下にある。二〇〇六年は、一月から販売が低下傾向となり、受託業者や卸業から市況の変調を指摘する声が上がってきた。また健康増進法に照らした行政の監視も強化され、TV局にも自粛要請を強めている。

同年、二・三月には、「大豆イソフラボンの摂取量の上限值問題（内閣府食品安全委員会／以下安全委員会と記す）」、「CoQ10問題が検討会の俎上に（安全委員会）」、「アガリクスに関するブック商法の公判」「アガリクスの安全性をめぐらるアガリクス問題浮上（安全委員会）」等の影響を受け、市況は低迷傾向となる。総務庁の調査によると、健康食品の消費状況は、一・七月で前年比二割ダウン

ン、八月は三七・五%の大幅ダウンとなったことが明らかとなった。

一方、OTC(大衆薬)市場は平成一〇年以降、低下の一途をたどっている。日本大衆薬工業薬協会では、市場低迷の打開策として、ハーブの医薬品化構想の活動を活発化させている。今後、医薬品業界と健康食品業界において、ハーブと医薬品との線引きの攻防戦に発展する可能性がある。健康食品業界は、医師などの連携を強める必要があると思う。

ドラッグストア大手の経常利益(二〇〇六年第一四半期)も減少傾向が顕著となった。しかしドラッグストアの販売方法には問題が多いと思う、TVの健康番組で特定の食材や健康食品が紹介されると、バイヤーが仕入れを増やして店頭を賑わせる。本当に消費者の健康を考えているか甚だ疑問だ。これに照らし指導士はどう販売するかという理論武装が必要である。

日本における食品の安全性については、消費者は相当の不安感をもっている。「食品の裏側(安部司著・東洋経済新報社刊)が百万部も売れているのがその証拠。価格が安いのが最良の価値ではなく、よい物は必然的に高くなるということも理解する必要がある。また、日健栄協の林理事長の「有害でない食品はない、有害でない食べ方があるだけだ」とする主張に刺激を受けている。

現在、リスクマネジメントとリスク評価が一括して行われ、ベネフィットの課題が欠落している、今後は学会等の協力を得て、様々なデータによる総合判断による評価が必要で

あろう。

また、現在は、健康食品に対する法整備が不備である。早急に薬事法の改正と健康食品に関する専門の法律の制定を求めたい。

従来のトクホ制度に、「規格基準型」、「条件付き」機能表示「三つのタイプの新トクホ条件が附加されたが、条件付きトクホなどはすこぶる評判が悪い。そこで、日健栄協のJHFAマーク表示認定製品の見直しと活用を提案したい。安全性、有用性のガイドラインづくり、市販後調査など「ニューJHFA」基準を制定し、条件付きトクホへの組み入れの促進を図ってほしい。

健康食品のビジネスモデルは変わったと思う。在来のTV主導によるブームの相乗り逃げ切りパターンの時代は終わった。今後は、健康食品に係る関連法規の厳重運用に鑑み、安全性や有用性の評価等のエビデンス構築に投資し、代替医療・統合医療・アンチエイジングなどの観点での理論武装を拡大する必要がある。

二、講演テーマ(二)

「深刻化する健康問題(増加する癌、人間ドック学会報告)↓深刻化する「メタボリックシンドローム」

「〇七年問題と期待に溢れる健康食品市場(医療制度改革、アンチエイジング志向等)」

日本の人口は、二〇〇六年の一億二、七七四万人をピークに次第に減少に転じたと予想されている。六五歳以上の高齢者の人口比率

は増加していく。今の中高年齢者は昔の同年齢者とは異なる。これからは、例えば六〇歳の人は、平均寿命から勘案して自分の余生はあと二〇年、いわば六〇+二〇と考えるのは保守的である。元気で若々しく生きる方程式「現在年齢×3/4」で計算し、自己もそのように考え、健康食品業界のマーケティング戦略も構築すべきであろう。

国民医療費は、現在三二兆円に達し、今後増加の一途を辿ることが予測され、問題視されている。厚生労働省では医療制度改革など医療費の低減策を講じているが、元気な高齢者を増やす政策はまったくくない。これからは、「アンチエイジング、メタボリックシンドローム対策で元気な高齢者を作る」がキーワードとなる。

在来のTVやブーム依存から脱却して成功のビジネスモデルを探すべきである。アンチエイジングやメタボリックシンドロームの市場構築に力を注ぐことがその基本である。

*研修会案内書では、講演テーマを「健康食品の動向」としておりましたが、実際のテーマは「健康食品市場の現在の問題点と今後の課題」となりましたことをご了承下さい。



◆主催／食品保健指導士会

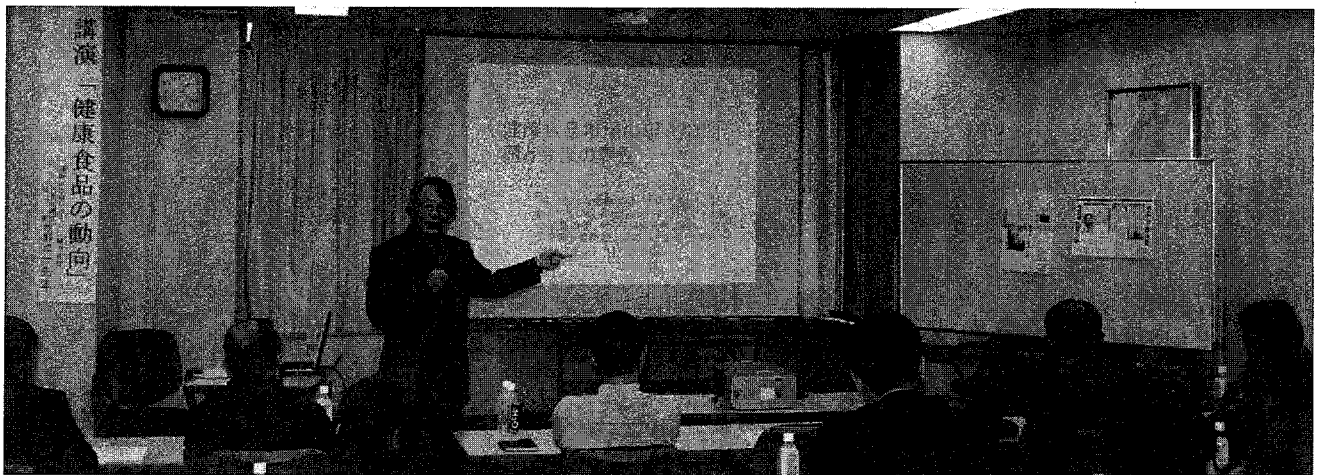
◆後援／（財）日本健康・栄養食品協会



11/18（東京会場）▲受付／石井幹事・岸本指導士



11/18（東京会場）▲挨拶する杉浦会長



11/18（東京会場）▲熱弁をふるわれる牧野先生

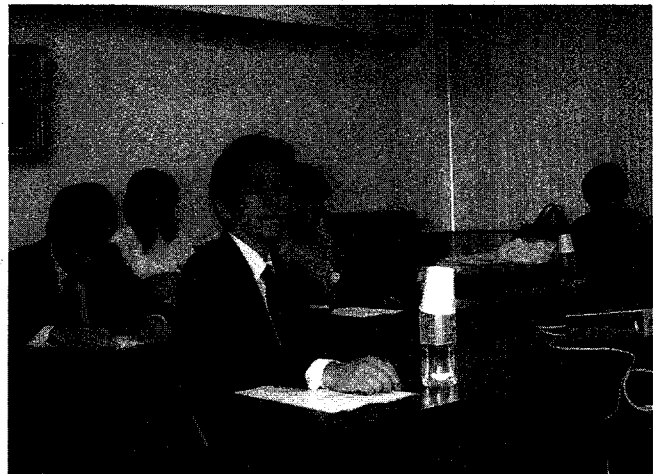
▼熱心に受講する指導士



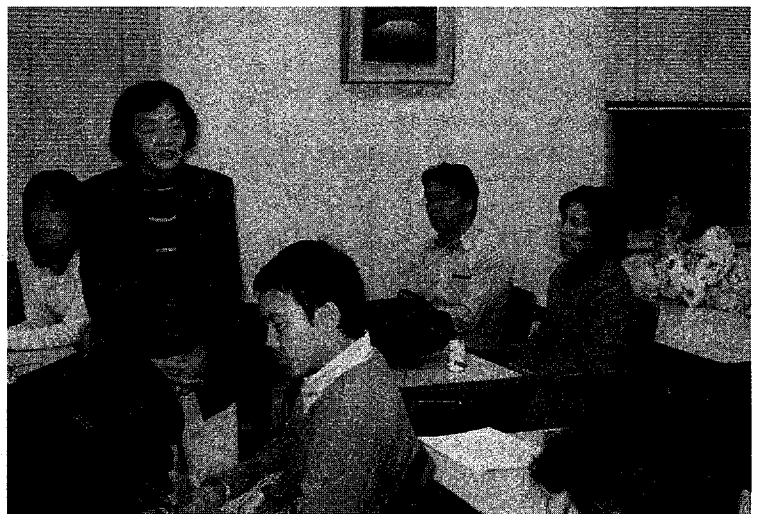
平成 18 年度 「秋期研修会」



11/25 (大阪会場) / ▲ 講義をされる牧野先生 ▼ 受講する指導士



▼11/18 (東京会場) 東京都地区会世話人の岡村指導士



《秋期研修会》

東京会場レポート

晴天に恵まれた十一月一日、通いなれた(財)日本健康・栄養食品協会の三階に赴く。役員の集合時間は正午です。日健栄協からのお世話役は教育研修部の岩浪課長です。受付係りは、石井幹事と岸本指導士、講師接待係りは藤澤指導士、写真撮影係りは吉池指導士です。今回は、能美幹事より高知県の深層水が無償で沢山提供いただきました。定刻には全員が着席し、川村幹事の司会で

研修会のスタート。先ず杉浦会長の挨拶。日健栄協と牧野先生の協力に対する謝意を述べ、今日の研修内容を今後の指導士業務に生かして欲しいと結びました。

いよいよ、牧野先生の講演です。牧野先生は、ご承知のとおりCMPジャパン(株)の社長であると共に、同社の業界紙ナンバーワンの「健康産業新聞」の編集局長も兼務です。まさにジャーナリストらしい多面的な視点で鋭い指摘をズバツとされるところが真骨頂です。また、日健栄協や指導士会の今後の事業展開についても多くの示唆を与えて下さいました。充実した研修会となりましたことに感謝し、牧野先生には今後とも引き続き様々な観点でのご指導をいただくことを切望してやみません。(編集)

《秋期研修会》
大阪会場レポート

牧野社長の講演は、健康食品及び食品保健指導士の在り方、方向性、将来性について、非常に有意義で、示唆に富んだ内容でした。出席者は十数人ということもあり、池田幹事のもと、全員が協力しあって、和気藹々としていました。講演の途中で質問をしたり、意見を述べたりと、自由な雰囲気もあり、楽しいものでした。また、社長の蘊蓄には、実に聞き応えがあ

りました。

私は、東京での研修時に所用があり、大阪に行つて聴かせていただきましたが、その甲斐があつたと喜んでゐる次第です。(指導士会副会長：淀川都)

《地区会活動状況》

◎第九回東京都地区会(兼忘年会)

- ・日時／一二月二九日(水)一八時三〇分～二一時
- ・場所／新宿の和・旬菜「かなえ」
- ・出席者／一七名(日健栄協 藤嶋事務局長、教育研修部の斉藤職員を含む)
- ・内容／東京地区の今後の活動方針の件
- ・世話人／新たに長田はるみ指導士、松本三恵子指導士が世話人となった。

◎第一二回千葉県地区会

- ・日時／一二月一〇日(日)一四時～一六時
- ・場所／千葉市文化センター四階会議室
- ・研修講演「医薬品とサプリメントの相互作用Ⅱその現状と事例研究Ⅱ」
- ・講師／皇漢薬品研究所 早川明夫
- ・参加者／二〇名
- ・その他／研修会終了後、忘年会場に席を移し、楽しいひと時を過ごしました。

食品保健指導士会活動状況

●平成一八年度第五回幹事会

- ▽平成一八年九月二八日(木)
- ▽於／(財)日本健康・栄養食品協会一F
- ▽出席幹事／杉浦会長、淀川副会長、石井・池田・川村幹事(五名)
- ▽オブザーバー／日健栄協：藤嶋事務局長、岩浪教育研修部課長(二名)
- ▽議題／①平成一八年度会費納付結果の件、②平成一八年度アンケート調査実施結果の件、③「平成一八年度秋期研修会」の件、④食品保健指導士会ホームページ作成の件、⑤教育研修部活動情報の件、⑥一階展示ルーム説明要員の職務範囲の拡大の件

●平成一八年度第六回幹事会

- ▽平成一八年一〇月一九日(木)
- ▽於／(財)日本健康・栄養食品協会一F
- ▽出席幹事／杉浦会長、淀川副会長、池田・川村・能美幹事(五名)
- ▽オブザーバー／日健栄協：藤嶋事務局長、岩浪教育研修部課長(二名)
- ▽議題／①会費の最終納付結果の件、②会報第一三号発行の件、③秋期研修会の件、④教育研修部活動情報の件、⑤平成一八年度助成支出依頼の件

(以上)